

インドネシア発商材拡充

昭和興産 中国で天然樹脂好調

【ジャカルタ】渡邊康 昭和興産は、インドネシア事業を拡大する。インドネシアでのみ産出する天然樹脂タマールを塗料・インキ原料として中国市場で拡販しており、家具向けなどで好調という。引き続き現地発の商材を増やす考えで、天然ゴムやラテックスなどインドネシアが強みを持つ天然素材を開拓していく。一方、中国から硫酸バリウムやサリチル酸などの無機化学品をインドネシアへ輸入し販売する取り組みを開始し、実績を築きつつあることから、新規商材や新規顧客の開拓を進める。タイ拠点が始めた金属石けんについてもインドネシアでユーサーの評価に入るなど、他のアジア拠点と連携し新事業につなげる。

インドネシア現地法人の昭和興産インドネシアは2014年に設立。順調に事業拡大を進めており、今年は前年比7割増の売上高5億円を見込んでいる。

主力は界面活性剤のほか、ウレタン原料、塗料原料、電線・情報機器などエレクトロニクス関連といった輸入事業。たまため、輸出や樹脂のトレードといった新たなビジネスを積極的に拡大しており、輸入事業の売上比率は6〜7割となっている。

輸出ではインドネシア特産品をアジア諸国へ売り込む。スマトラ島やカリマンタン島といったインドネシアでのみ産出される天然樹脂タマールの取り扱いを昨年からは開始。塗料やインキの原料として、耐熱性も高いことから家具のコーティング向けなどに需要が伸びているという。同社はグループ拠点を通じて中国で拡販を進めている。タマール樹脂に続き、天然

ゴムやラテックスなどを候補に輸出事業を拡大していく。

一方、上海拠点が取り扱う無機化学品をインドネシアで拡販する取り組みにも乗り出した。硫酸バリウムやサリチル酸などで実績が出てきていることから新たな商材・顧客の開拓を進めていく。また、タイ拠点が本日

化学工業およびフォルミサ・オーガニック・ケミカルとの3社協業で始めた金属石けんについてもインドネシアでユーサー評価を進めている。大日化学の品質保証の下、小ロット対応も可能なタイでの現地生産を実現しており、樹脂コンパウンドなどに欠かせない材料として拡販する。